

学会たより NO.2

セミの声がすごいなあなんて思っていたのに、気づけば鈴虫の声が聞こえるこのごろ…。

さて、皆様お待たせいたしました。学会たより NO.2 の発行です。

9月に入り、学会まであと半年をきりました。演題登録も開始し、徐々に作業療法学会にむけて本格的に始動し始めたかな?と感じております。皆様、奮って演題発表にもご参加ください。

また、講演なども含めプログラムが決定しました。新たな試みとして、写真展開催や学会 Twitter の導入をしました。新たな試みを行うという事で、実行委員も慣れない事でバタバタしています(笑)しかし、第11回茨城県作業療法学会を成功させようと実行委員一同、奮起して取り組んでいきたいと思ひます。

そんな絶賛奮起中の実行委員の紹介を今後シリーズ化していきたいと思ひます。今回は実行委員長紹介です。是非とも、実行委員の顔を覚えて頂いて、気軽に声をかけてください。

プログラム

- 基調講演：村山幸照氏（相澤病院）
『病院から生活につなげる作業療法のかたち』
- ランチョンセミナー：石塚保土氏（らいおんハート相談支援事業所東海）
『児童デイサービスにおける地域支援～自由な暮らしのために～』
- スペシャルセッション：中堅者演題発表（口述）
- 教育講演：渡邊乾氏（訪問看護ステーション KAZOC）
『当事者のリハビリに向けた、OT のできる事』
- 自助具アクティビティコンテスト
- 当事者様制作作品展示
- ユーザー支援事業紹介スペース
- 福祉機器展示
- 写真展

新企画

スタッフ紹介

実行委員長



大松史人（医療法人永慈会 永井ひたちの森病院）

実行委員長の大松と申します。今回の学会の新しい試みの1つとして、演題発表において来場者の皆さんが投票できる“演題優秀者投票制度(仮)”を企画しました。みなさんが投票権を持つことで演題により興味を持ってもらえれば嬉しいです。みなさんの一票をお待ちしております。